

## 平成24年度第1回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成24年7月5日（木）18時30分～19時30分

会 場：鎌倉市役所第3分庁舎1階講堂

出席者：＜委 員＞中村委員、中谷委員、安齊委員、落合委員、高木委員、高橋委員  
富田委員、佐々木委員、牧田委員、加藤氏（田伏委員代理）

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

市民相談課長、産業振興課長、福祉総務課長、  
高齢者いきいき課長、学務課長、教育指導課長、  
教育センター長、西鎌倉小学校長、  
第一中学校校長

事務局（部長及び市民健康課）

佐藤健康福祉部長、大澤市民健康課長、  
西山課長補佐兼健康づくり担当係長、大隅

### 事務局（大澤次長）

皆さまこんばんは。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議、柿澤委員さんがまだお見えではないのですが、そのほかの委員の皆様はお集まりいただきましたので、この会議については成立しております。

また、本日の、傍聴希望者はございませんでした。以上ご報告させていただきます。それでは、ただいまから平成24年度第1回鎌倉市食育推進会議を始めさせていただきます。会長よろしく申し上げます。

### 中村会長

ありがとうございます。

只今、事務局から推進会議の成立について報告がありましたのでこれより、平成24年度第1回鎌倉市食育推進会議を開会いたしたいと思えます。

先日、ご存知のように横浜で全国食育大会がございました。すごい人の数でございまして、展示場に私も行ったのですが、1時間待ちでした。ピークの時は2時間待ちだという話でした。会場に入りますと各セッションがとても熱心に取り組み、食育活動も定着したのではないかというふうに思います。

この食育を推進した成果がどのような型で出ているのかというような評価を国のほうでやろうとしています。しかし、いざ評価すると、困難なところがあります。例えば、食育を進めていくことにより、生活習慣病の予防ができたのかとか、食料自給率が向上したとか、地産地消が普及したとか、あるいは、子どもたちが食事を大事にして感謝の念を持ちながら食事をするという文化が根付いたのかなど、いろ

いろいろあると思います。最近、朝食を食べない子どもたちが多いのですが、朝食だけではなく、夕食も、塾に行ったり、お父さんが帰ってこない、夕食の食卓も揃わないなどの問題もあります。

これからしっかり食育活動を進めていかないと、せっかく諸外国から日本の食事は安全で、安心で、健康に良いという評価を頂いて文化遺産にも登録しようとしていますが、外見はいいの다가中身はちょっとおかしくなっているというのでは、問題があると思います。これからも鎌倉市も食育に積極的に取り組んでいただくようお願いしたいと思います。

審議に入る前に、事務局から何かありますか。

### 事務局（大澤次長）

審議に入ります前に、今回、委員さんの方に変更がございますので、紹介させていただきます。

神奈川県鎌倉保健福祉事務所保健福祉部長さんが中澤よう子様でしたが、4月1日付けで、転出されております。後任として佐々木つぐ巳様が部長としていらっしゃいまして、今回委員になっていただいておりますのでご紹介をさせていただきます。また、本日、田伏委員さんがご欠席で、代理で加藤様がおみえになっておりますのでよろしくお願いいたします。

また、皆様机の上に解職状と委嘱状をご用意させていただいております。前回の会議でご説明をさせていただきましたが、この食育推進会議につきまして、今まで任意的な会議とさせていただいておりましたが、やはり食育推進計画の策定ですとか進行について調査審議というような場となっておりますので、鎌倉市の条例を設けまして、附属機関としての位置づけとさせていただきました。その関係で、今までの任期といたしましては、24年10月27日までとなっておりましたが、一旦解職をさせていただいて、改めて4月1日付けで委嘱をさせていただいております。委嘱状につきましては机の上に置かせていただいているということでよろしくお願いいたします。

続きまして、事務局の方にも異動がございますので、紹介させていただきます。

7月1日付けで健康福祉部長に佐藤が着任しておりますので、ご紹介をさせていただきます。

### 事務局（佐藤部長）

皆様改めましてこんばんは。私の体を見ていただくとかなり大きい体でして、母には感謝しておりますけれども、私の小さい頃はまだまだ豊かな時代ではございませんでしたけれども、多分十分な食事を頂いたことによって、こうした大きな体が今もあるのかなと、改めて食べることの大切さを実感しているわけですが、先般いろいろ国の動きを見ますと、社会保障とか税をどうしようとか子育てをどうしようとか話題がありますが、なかなか先が見えない非常に混沌としたところがあると思

います。こうした中でも健康福祉部の所管する業務も多岐にわたってございますけれども、食育についても非常に重要な課題とっておりますので、今後とも皆様のご協力を賜りますよう改めてお願いしたいと思っております。

### **事務局（大澤次長）**

続きまして、事務局の方にも職員の異動がございますので、一名だけでございますが課長補佐の西山が着任しておりますのでよろしくお願ひいたします。本日の後程の説明も西山の方からさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

### **事務局（西山補佐）**

西山でございます。よろしくお願ひいたします。

### **事務局（大澤次長）**

本日、席の後ろの方に数名着席しておりますのは、市役所庁内の中で組織を作っております、鎌倉市食育連絡協議会というのがございます。そちらの委員、課長級の職員でございます。各課の食育関連する、あるいは学校の先生達でございますので、ご紹介をさせていただきます。名簿につきましては机上にお配りさせていただいておりますので、それで省略させていただきたいと思っております。

報告事項としては以上でございます。よろしくお願ひいたします。

### **中村会長**

ありがとうございました。

新委員の佐々木さん、ご挨拶をいただけますでしょうか。

### **佐々木委員**

みなさんこんばんは。神奈川県鎌倉保健福祉事務所保健福祉部長の佐々木と申します。4月に異動でこちらにまいりました。神奈川の健康プラン21の食の部分について鎌倉市の皆様には協力を頂いて目標の達成にご協力を頂いているところです。今後もこの食育の推進ということで、その目標がいくらかでも達成できますようにまたご協力を頂きたいと思っております。今日もよろしくお願ひいたします。

### **中村会長**

お願ひいたします。

ありがとうございました。

では、会議次第に従い、議題1「鎌倉食育推進計画 行動計画 平成23年度の実績報告（平成23年度4月から3月まで）と平成24年度取り組み予定について」事務局から説明をお願いします。

## 事務局（西山補佐）

まず、本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様には、先日資料を送らせていただいておりますが、本日お持ちいただきましたでしょうか。

それでは、議題1「鎌倉食育推進計画 行動計画 平成23年度の実績報告（平成23年度4月から3月まで）と平成24年度取り組み予定について」の、説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

こちらは、食育推進計画で定めました5本の取り組みの柱ごとに基本施策、行動目標、指標及び市の取り組みを記載しています。

市の取り組みは、関連各課が行動計画に基づき事業を継続して行っていますので、変更のあった点についてご説明いたします。

1ページをご覧ください。中ほどからやや上のところに行動計画（実施事業）の表の中で、一番下の段になります「地域食育事業・健康づくり事業の実施」では、町内会・PTA・子育てサークル等地域の活動グループとの連携・協力により、骨密度や体組成測定等とあわせて啓発を行っており、平成23年度は食事時間が体に及ぼす影響に重点をおいて実施しました。平成24年度も高校生、大学生、働き盛り世代等、対象の拡大を目指していきます。

それ以外は、食育の推進に向けて継続的に事業を行っているところです。

以上で説明を終わります。

## 中村会長

ありがとうございます。

ここまでのところで、何かご質問はありますか。

## 中村会長

ないようでしたら、次に、議題2の次期計画の策定について、事務局から説明をお願いします。

## 事務局（西山補佐）

それでは、議題2の（2）次期計画の策定について説明いたします。

資料2をご覧ください。

次期計画策定の方向性は、前回の会議で承認いただいたとおり、

- ① 取り組みの柱と基本施策については基本的に変更しない。
- ② 行動目標や指標は国の基本計画やアンケート結果等、現状に合わせて変更し、取り組みの重点化を図る。

となっております。資料2の一番下に記載してありますけれども、放射能については、前回の会議で承認いただいたとおり、取り組みの柱の「食からはじめる環境づくり」の中に、例えば「食育情報の発信体制の充実」という基本施策を設け、「行

動計画」の中に農薬、食品添加物、食中毒及び放射能等について情報提供したことを実績として掲載するなど、「食の安全」という概念として、行動計画の中でふれていくことを考えています。

次に、次期鎌倉食育推進計画の全体の流れについてご説明します。

資料3をご覧ください。

次期計画は、現計画の期間である平成20年度から24年度までの終了に伴い、平成25年度から平成29年度までの5年間の新たな計画の策定を行います。

全体の流れとして、「第1章計画の概要」、「第2章鎌倉市の食の現状と課題」、「第3章鎌倉食育推進計画の状況」、「第4章次期鎌倉食育推進計画について」、「第5章計画の進行管理」という大きな章立てを考えております。

それでは、各章についてご説明します。

各章の説明の際に資料3と各章ごとの資料を使用してまいります。

また、資料の文言や図などの表現は、まだこれから変更していく予定ですので、イメージとしてご覧いただければと思います。

では、資料4をご覧ください。こちらは、「第1章計画の概要」について作成したもので、「1計画改定の趣旨」、「2計画の位置づけ」、「3計画期間」、「4市民意識調査について」という項目立てをしております。

「1計画改定の趣旨」として、平成24年度末で5年間の計画期間満了を迎えるため、現在の鎌倉食育推進計画の基本理念及びめざす姿（目標）を引き継ぎ、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、平成25年度からの改定計画を策定するといった趣旨を記載していきます。

次に、「2計画の位置づけ」についてですが、国の食育基本法に基づく市町村食育推進計画として位置づけるとともに、本市の他の行政計画と連携する個別計画となっていることを記載しています。

「3計画期間」については、平成25年度から平成29年度までの5年間としております。

「4市民意識調査について」では、平成22年度に実施した「食と健康に関するアンケート調査」の概要について記載しています。この調査結果も踏まえ、次期の計画を策定していきます。

「第1章計画の概要」については、以上です。

## 中村会長

ありがとうございます。これまでのところで、ご意見ございますか。

全体としては、5章の組み立てですね。前回と変わっているところはあまりない

のですか。

### 事務局（大隅）

前は方向性だけでしたので、章立てについては今回ご意見いただくようなかたちです。

### 中村会長

そうですね。何かご意見ございますか。これで良いでしょうか。

### 高橋委員

一つお伺いしたいのですが、資料4の後ろに書いてあります、4市民意識調査についてですが、回収率が40.3%ということなんですけれども、それぞれ①から⑥までの対象者がいまして、ほぼ平均的な感じで戻ってきているのでしょうか、それともばらつきがあるような感じの回収率があって総計みたいなかたちになっているのでしょうか。

### 事務局（大澤次長）

アンケートの回収率ですが、全体としては40.3%ですが、一番少ないところで中学校2年生のところは34.3%、一番高いところが小学校3年生の43.8%、その間にその他の年代が入っており、平均40.3%ということになります。

### 高橋委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

### 中村会長

最近ですね、食事が最もおかしくなるのは、高校生だといわれているのですが、高校生はアンケートしないのですか。

### 事務局（大澤次長）

23年の3月にさせていただいたのは、小学校、中学校にもご協力を頂いて、あとは成人としてのとらえとして取らせていただいたということになっております。

### 中村会長

高校生、大学生というのは一番気にはなるのですが。これは調査できないのですかね。難しいのでしょうか。

### 事務局（大澤次長）

市内にある高校に依頼をして、高校生でしたら調査できないことはないと思います。大学生になりますと、広範囲といいますか、例えば鎌倉女子大さんのご協力を

いただいてやるとか、そういったことは可能かと思いますが、広い範囲で回収率なども考えますと、なかなか取りにくい世界であるのかなとは思いますが。

### 中村会長

中谷先生、鎌倉女子大では取りにくいですか。

### 中谷委員

女性だけで偏りがでてきてしまいますよね。恐らくうちの大学だけということになりますと。

### 中村会長

女性だけということではやはり難しいでしょうか。  
他にご意見ありますか。

### 事務局（大澤次長）

今の、会長さんから頂いたのも一つの課題であると思いますので、今回のアンケート調査に含んだものはできませんが、高校生、大学生の年代の方たちに例えば街頭インタビューですとか、何かイベントがあった時にアンケートをとるとか、数はそれほどとれないかもしれませんが、何か考えていきたいと思います。

### 中村会長

そうですね。確か前回の食育の分析で、高校生、大学生の食生活が最も問題があるということが出ていたので、ちょっと気になって。ありがとうございました。それでは、引き続きご説明をお願いします。

### 事務局（西山補佐）

では、「第2章鎌倉市の食の現状と課題」についてご説明します。

資料3の中ほどをご覧ください。

まず、第2章の1として、現状のうち（1）「食と健康に関するアンケート調査」からみえる食の現状として、『「食育」の認知度』、『「食育」への関心度』、『「食」について大切にしたいこと』など、いくつかの項目について図表により記載し、国や県とのデータの比較についても掲載していきたいと考えております。

また、（2）各課の統計などから見える現状についても、『ア健康診査結果からみた体格』、『イ参考データ』、『ウ歯の健康』についての項目別に図表により記載していきたいと考えております。

裏面をご覧ください。次に、第2章の2として、鎌倉市の食の現状から見える課題を記載していきます。大きく分けて（1）心身の健康問題、意識について（2）食生活の変化について（3）食に関する関心について（4）食情報についての、4

つの切り口から、課題を整理し記載していきます。現状と課題の記載については、資料5をイメージとしてお配りいたしましたので、参考にさせていただきようお願いいたします。

「第2章鎌倉市の食の現状と課題」については、以上です。

### **中村会長**

ご意見ございますか。

これは、全国の傾向と比べて鎌倉市に特異的に現れているものはあるのですか。

### **事務局（大澤次長）**

今までの私共の推進計画の中にも、目標値等設定させていただいて、全国的に見ますと、資料5でいう「食育」の認知度は少し良い位ですが、傾向が著しく逆転しているようなところはなく、傾向的には同じ状況です。鎌倉独自でとっている鎌倉食育推進計画への関心度は、低いというような傾向はありますが、それほど特異なケースはないようです。

### **中村会長**

「鎌倉の食」への関心というのはなんですか。

### **事務局（大澤次長）**

かまくら食育クラブというのをやっております、あるいは、かまくら食育通信というこういったものに対して「知っていますか」ということには、ほとんどの方が知らないような状況で、アピール不足、認識不足、そういう意味での「鎌倉の食」に対する関心という設問になっています。

### **中村会長**

有名になっている鎌倉やさいなどを、知らないというように思っていますね。

### **牧田委員**

「鎌倉の食」になっているから「鎌倉やさいを知っていますか」になってしまうので、「鎌倉の食育運動への関心」とか「食育施策への関心」とか「食」ではなく「食育」にされるといいのかもしれないね。

### **事務局（大澤次長）**

その辺のところは、精査させていただきながら、分かりやすくしながら作ってまいりたいと思います。

### **高橋委員**



今のことなのですが、食育クラブといったところで名前が上がったのですが、計画的には25年度の食育クラブといったところが市の方と離れての活動というか、そういった形になるということで、今のところは進んではいるのですが、それをこの計画の中に入れてしまうのはどうなのかというのは感じているのですが、今後、もしその活動がまだつながっていくのであれば別だと思うのですが、そこがはっきりしたほうが良いかと思えます。

### 事務局（大澤次長）

食育クラブさんについては、一つの団体として自立をしていただくということですが、食育クラブ員の養成講座といったものは今後なくなっていくと思いますが、食育に対する講座というのは開催していきますし、そういった中でつながりとか、参加した方がクラブ員さんになっていただくとかそういったことはあると思うのでそうしたかたちで表していくようになると思います。

### 中村会長

それでは、引き続き説明をお願いします。

### 事務局（西山補佐）

では、「第3章鎌倉食育推進計画の状況」についてご説明します。

資料3の裏面及び資料6をご覧ください。

資料3裏面の「第3章鎌倉食育推進計画の状況」については、「1これまでの取り組みの成果と課題」「2国、県の動向について」「3現状と課題のまとめ」という構成になっております。資料6は、ただいまご説明した内容をこのようなイメージで表現しますというイメージ図で、例示として取り組みの柱1のみを掲載しております。

資料3の裏面に戻りまして、「1これまでの取り組みの成果と課題」につきましては、取り組みの柱ごとに基本施策、行動目標、行動計画、平成20年～24年度の鎌倉食育推進計画の行動目標に関する指標と達成状況、行動計画の課題を掲載していきます。

次に、「2国、県の動向について」ですが、資料6の裏面をご覧ください。

(1) 国の動向としては、平成23年3月に第2次食育推進基本計画を策定しております。資料7をあわせてご覧ください。資料7の上段の方、新しい計画のポイントの囲みの中で、コンセプトは、「周知」から「実践」へととなっております。

また、食育の推進に関する施策についての基本的な方針として、①生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進 ②生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進 ③家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進 以上3つの重点課題を掲げています。

資料6の裏面にお戻りください。(2) 県の動向としては、平成25年3月に第2

次神奈川県食育推進計画を策定する予定となっております。資料8をあわせてご覧ください。上から二つ目の囲みですが、新しい計画のポイントは、若者も高齢者も元気で暮らすことを目指す医食農同源の推進となっております。

また、食育の目標に2つの重点課題を掲げていて、国の3つの重点課題のうち2つを入れています。

資料6にお戻りください。最後に「3」として現状と課題をまとめていきます。「第3章鎌倉食育推進計画の状況」については、以上です。

## 中村会長

ご質問ございますか。

県も来年の3月に第2次計画を作られる予定ですか。

## 事務局（大澤次長）

元々私どもの方が1年早く作っておりまして、県は一年遅れのかたちだったのですが、県も来年3月の予定になろうかと思えます。

## 中村会長

今、神奈川県はですね、医食農同源というのをかなり表に出されている印象です。鎌倉では聞いたことありますか。

## 事務局（大澤次長）

医食農同源については、私どもも県の職員から最近良く聞くようになりました。

言葉として、医と食と農の連携というインパクトのある言葉なのかなということで、理解をしているところです。

## 中村会長

初めて聞かれた方も多いと思えます。知事さんが最近強調されています。

農水省も、プロジェクトをすすめています。医食同源という概念は昔からのものですが、医食農同源は、農業政策ともリンクしています。何の特徴があるかといいますと、例えば、野菜を食べて健康になり生活習慣病を予防するというのは昔からある話で、積極的にメニューに野菜を入れましょうという話なのですが、医、食に農が入ると、野菜に、生産方法を改良した高機能野菜をとり入れようということです。例えば、大豆の中にイソフラボンが多いので大豆をとると更年期障害の予防になるとか、動脈硬化が予防できるということが確かめられています。そうしたら、イソフラボンを高濃度に含んだ大豆を作ろうじゃないかということです。従来だったらそれをサプリメントでとっていたのですが、サプリメントではなくて食材として料理の中に入れておいしい料理として日常的に食べていこうということです。

そして、その大豆は通常よりもちょっと値段が高くなるのだが、付加価値を持てば

農業政策を後押しすることができる。つまり普通の野菜だったら外国の安い野菜に勝てない。だから価格が少し高くなるかも分からないが、健康に良いとか、生活習慣病予防になるなど付加価値を付けることです。今、玉ねぎと大豆とお茶など5～6食品をもう研究がすすんでいます。その成果が出てくれば、新しい形の食育活動ができるのではないかと感じはしています。

### **牧田委員**

経済的に農産物に付加価値を付けるというのは、きっとそういう方法があるのなと思って聞いておりましたけれども、私などは、どちらかというと水産業に関連している業種ですので、何で医食農水にならないのかなと思います。当然、ドコサヘキサエン酸とか機能的なものが青魚に含まれているわけで、今、農商工連携ですとか地域資源活用の中小企業庁の認定事業なども手がけてみようと思うのですが、やはり農業に関するものは認定が受けやすいのですが、漁業に関するものはなかなか難しいようなのですね。それを思いますと食育の中に、やはり鎌倉は海があるわけですから、水産漁業そういったものに対する認識があって、わかめとか採れているわけですし、そういう体験をしている小学校の皆さんも、教育をしてくださっている学校もおありのようですし、医食農に水も入れていただきたいと思うのですが。

### **中村会長**

水産も入れているのです。また、一つの食品に高機能成分の含有を多くするという話と、組み合わせによって機能性が高まるのではないかとということもあります。例えば単にご飯を食べるのではなくて、マグロと一緒に食べると血糖が上がりにくくなるとか、そういう研究も少しずつ進み始めてきています。鎌倉では水産業も重要ですね。水産物に対するエビデンスは沢山あります。先ほどおっしゃったようにEPAとかDHA以外にも、たんぱく質そのものに機能性があるのではないかとか、これはもっと研究すべきだと思いますね。日本は水産国でありながら、野菜の話ばかりではなくて、水産物部門もあることも考えていきましょう。

### **富田委員**

県では水産業ができないような市もあるでしょうからもしかしたら入っていないのかも知れないですが、鎌倉市としてはそれが入るのでしたら、ここに明記していただいたほうが進みやすのではないのでしょうか。

### **中村会長**

他になれば、次に行って良いですか。では、引き続きご説明をお願いします。

### **事務局（西山補佐）**

では、「第4章次期鎌倉食育推進計画について」ご説明します。  
資料3をご覧ください。

「第4章次期鎌倉食育推進計画について」では、1 施策の体系、2 基本理念、めざす姿（目標）、取り組みの柱、3 基本施策と行動目標、指標、行動計画という構成になっています。

資料9 鎌倉食育推進計画の体系図をご覧ください。

左から「健康福祉プラン」「基本理念」「めざす姿（目標）」「取り組みの柱」となっています。これらは、第1期食育推進計画を踏襲しています。

次に資料10をあわせてご覧ください。

次期鎌倉食育推進計画を策定するにあたり、基本施策を整理し、新旧対照表を作成しました。

従前の基本施策を見ると、施策と行動目標が混在しているため、整理しました。基本施策を今後5年間の計画の大きなくくりとしてとらえ、例えば、表の左端にある取り組みの柱の「食をとおした健康づくり」について、旧基本施策の「C生まれるまえからの食を大切にする」「E若年層からの生活習慣病予防に取り組む」「F高齢者の低栄養を予防、また摂取過剰を予防する」の3つを全てのライフステージを対象にするため新しい基本施策の「1-2食と心身の健康づくりの推進」へまとめ、行動計画の中で各事業について表していくことを考えております。

また、取り組みの柱の「食からはじめる環境づくり」の「O」「P」「Q」「R」の様々な「場づくり」は、「4-1食に関する場づくりの推進」にまとめ、食の安全を含めた情報の提供やその体制の充実をすすめるため「4-2食育情報の発信体制の充実」をあげました。

さらに、取り組みの柱の「ネットワークづくり」は、4本の柱をつなぐ位置付けと考え、「V地域で食育を推進するリーダーを育成する」「W生産から食卓まで、顔が見え、思いが通じる交流会を実施する」は、「3-3食をとおした地域づくりの推進」に統合し、行動目標にボランティア数の増加や交流会の実施をいれていくことを考えております。

基本施策については、以上です。

## 中村会長

いかがでしょうか。

全体的には、基本施策はスマートになった感じですか。

## 事務局（大澤次長）

今までの基本施策が、どちらかというと行動計画的なものまで含まれていて分かりにくかったので、このように今回、整理させていただいて、その中で、当然今、基本施策に入っているものはその中の行動計画ですとか、そういったところに収まっていくようなかたちとして考えていきたいということでございます。

## 中村会長

以前は、基本ではなかったのですね。具体的な話になっていると。

## 落合委員

「食をとおした健康づくり」の中で特に「生まれるまえからの食」ということが大切だと思います。最初に食べた味、それから幼児の時に食べたものがその子の一生の好みを左右すると思うのですね。それを考えると一生の健康は生まれた時から始まるような気がしますので、この「生まれるまえからの食」というのはすごく大事だと思うのですが、今まで具体的な活動としては、どのようなことが行われていたのでしょうか。

## 事務局（大澤次長）

市民健康課で、例えば妊娠から出産、子育てなど母子保健事業を展開していき、その中で、まずお腹にいるときはお母さんに対する健康教育と申しますか、健康指導そういう中で食の大切さをアピールし、啓発していきますし、子どもが生まれてからは、1歳6か月健診ですとか3歳児健診などの健診の場面や、育児教室などで指導をしていきますし、育児教室の中では例えば離乳食教室ですとかそのような事業を行いながら、そこへ参加していただいて食の大切さと必要性について、アピールしているのが現状の活動です。

## 落合委員

健診時とか離乳食の時に、指導していただくのはありがたいのですが、「生まれるまえ」に、母親を集めての研修会みたいなものはどの程度行われているのでしょうか。

## 事務局（大澤次長）

両親教室とかいくつか教室がございますので、その中で管理栄養士さんに話をさせていただいて、お母さんのお腹にいるときの子どもを成長させるために必要な栄養のこと、あるいは取りすぎてはいけないし、少なすぎてもいけない、そういうことを含めて説明をさせていただいています。

## 落合委員

ありがとうございます。

## 中村会長

他にありますか。

## 牧田委員

ネットワークづくりというところですが、新しい計画ですと4本の柱をつなぐと

いう位置づけで検討中というふうに書いてありますけれど、私は「食でつなぐネットワークづくり」というのは1、2、3、4全部に関わっていくようなものなので、これはすごく良いアイデアだなと感じます。

## 中村会長

ということだそうです。他にございますか。なければ引き続きご説明をお願いします。

## 事務局（西山補佐）

資料9 鎌倉食育推進計画の体系図をご覧ください。

一番右の「行動目標とその達成状況を見るための指標」についてご説明します。資料11をあわせてご覧ください。指標についても新旧対照表を作成しました。

従前の指標では、市民と事業者の行動が混在していましたが、新指標では、国に合わせた指標を掲げました。

取り組みの柱の「食をとおした健康づくり」では、新規の指標として、  
③内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加  
④よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある市民の割合の増加  
の2つを掲げました。これらは、国と県の計画でも新規の目標として掲げられています。

食をとおした人づくり・地域づくりでは、  
⑤朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加についてですが、従前は、夕食を家族の誰かと一緒に食べるこどもの割合としていました。今回、国と県の指標に合わせて「朝食又は夕食」とし、「割合」から「回数の増加」に変更しました。

⑦地元産（県内産含む）食材の使用割合の増加についてですが、県内や市内の地元でとれる食材の活用等について普及啓発を行い、地産地消を推進するために新規の指標として掲げました。

また、従前の指標の中で網掛けとなっている、『利用者が量や内容を選べる「食」を提供する場の数』『「かまくら育ち」を発信する』『鎌倉ブランド野菜の育成に使用する植木剪定材等による堆肥の利用量』については、指標からは削除し、行動計画の中で実際の事業内容を表していくことを検討しております。

次に、資料12をご覧ください。2基本理念、めざす姿、取り組みの柱、裏面にうつりまして3基本施策と行動目標、行動計画、指標の項目についてですが、このようなイメージということでお示しいたしました。

「第4章次期鎌倉食育推進計画について」は、以上です。

## 中村会長

ありがとうございました。ご意見ありますか。

### 高橋委員

資料1-1の新規の⑦地元産（県内産含む）といったところなのですが、いろいろな話をした中で、鎌倉のといったところでいろいろ上がっていたのに、なぜここで県内産ということに入れるようにしたのですか。

### 事務局（大澤次長）

今、いくつか想定できるのが、やはり学校給食ですとか保育園とかそういう場で地産地消という、そういう割合なども県や国のレベルで県内産まで含めていると思うのです。今回、特に国に合わせた指標ということで、できるだけ鎌倉市の状況が分かるようにしたいということもありまして、そんな中で地元産、もちろん鎌倉のも入りますけれども、全体としては県内産も含めて地元産ということに捉えていきたいと思っています。

### 高橋委員

例えば、その結果を出すときのパーセンテージ的に鎌倉産としては何パーセント、県内産としては鎌倉産を除く県内産としては何パーセントみたいなそういうような書き方をするとすごく結果として分かりやすいのかなと思いました。

### 事務局（大澤次長）

数値の表し方は考えさせていただきます。

### 中村会長

いいですか。ありがとうございました。ないようでしたら、引き続きご説明をお願いしましょうか。

### 事務局（西山補佐）

資料3次期鎌倉食育推進計画 全体の流れの裏面をご覧ください。  
「第5章 計画の進行管理」についてですが、鎌倉市食育推進会議と推進体制の概要と、鎌倉食育推進計画行動計画について、毎年半期ごとに実施状況について実績報告を行うことや、事業計画を掲載していきます。

最後に、資料として計画策定の経過や鎌倉市食育推進会議委員名簿の添付を考えています。

以上のような流れで計画を策定していきたいと考えております。

以上です。

### 中村会長

どうでしょうか。ご意見ないですか。

### **牧田委員**

推進計画の実績報告と事業計画の件なのですが、半期ごとの実施状況について報告を行いというのは、ホームページ上とかどういうかたちで出すのですか。これは推進会議に対して報告するということであって、市民に対する報告ではないということなのでしょうか。ちょっとそのへんのことを教えてください。

### **事務局（大澤次長）**

今も半期ごとに行動計画の実績と当該年度の取り組みについて、今回も資料を付けてお示しをさせていただいていますが、同じようなかたちをまずやりたいということが1つございまして、また、今後食育についてのホームページのバージョンアップなどもいろいろ考えていきたいと思っておりますので、進捗状況なども入れていけたらなと考えております。このようなことを行いながら、市民の方にも広く状況的なものをお知らせしていきたいと思っております。

### **牧田委員**

ありがとうございます。最初に鎌倉の食についての認識があまりないとか、食育政策に対しての理解があまりないようなそういったところが話題になりましたので、このへんの、こういうかたちでこういう状況になっているということを一般の市民の方がより興味をもって理解をできるような工夫なり何かのそういうかたちをつくって頂くのかなと思っておりますのでよろしくお願いします。

### **中村会長**

それでは、他に何かありますか。

では、事務局のほうから。

### **事務局（西山補佐）**

資料13をご覧ください。

今後のスケジュールについて説明いたします。

本日承認いただいた次期食育推進計画の全体の流れに沿って、委員の皆様とメールや文書でご連絡をとりながら事務局で推進計画案を作成し、10月の第2回食育推進会議で推進計画案をほぼ決定した形でお示しし、11月から12月までの間でパブリックコメントを募集し、計画案の最終修正を行い、平成25年3月の第3回食育推進会議で皆様に計画の承認を頂き、計画を策定したいと思います。

委員のみなさまにお集まりいただける会議の回数が、あと2回のため、メールや文書でもやりとりを行い、ご意見をいただきながら進めていきたいと考えていますので、ご理解ご協力をお願いいたします。以上です。



**中村会長**

ありがとうございました。

ご意見ありますか。

では、事務局のほうでそのようにお願いいたします。

事務局、他に何かありますか。

**事務局（西山補佐）**

今回の会議録の確認についてですが、事務局でまとめしましたものを、メールなどで送信させていただきますので、内容についてご確認いただき、訂正があった場合はそれを事務局で反映させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

**中村会長**

皆様、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(委員了承)

**中村会長**

ありがとうございました。本日の議事はこれで終わりましたが、事務局の方で何かございますか。

**事務局（西山補佐）**

先ほどの推進会議のスケジュールでも申し上げましたが、平成24年度第2回会議は平成24年10月に開催させていただき予定になっております。

先の予定となりますが、会場の確保ができているのが10月25日（木）、11月1日（木）、11月12日（月）となっております。

時間は、今日と同じく18時30分から開催をさせていただきたいと思ひます。会場も同じくこちらの場所となります。

皆様のご都合をお聞かせいただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

**中村会長**

ここで今日決めてしまうのですか。

**事務局（西山補佐）**

都合があるようでしたら、また改めて。

**中村会長**

いや決められれば、決めてしまったほうがいいと思ひのですが。

都合の悪い方いらっしゃいますか。この3日間で。

### **安齊委員**

11月の12日の月曜日はできれば避けていただきたい。

### **中村会長**

他に避けたほうがいい方はいらっしゃいますか。

そうすると、10月25日（木）か11月1日（木）どちらがいいですかね。早めにやりますか。25日でいいですか。では、10月25日（木）の18時30分から第2回会議を開催とします。

これで全て終わりましたが、他に何かありますか。

ないようでしたら、終わらしましょう。どうもありがとうございました。